

平成27年度 まちづくり分科会のまとめ

検討テーマ

「安心して暮らせる地域づくり」

検討の目的

「少子高齢化と若者の流出で人口が減少し続ける中においても、住民が元気で安心して暮らし続けるためにはどうすれば良いか」を検討して、今後の住民と行政が協働した地域づくりに役立てることを目的とした。

分科会開催状況

4月から2月まで 計6回実施（合同分科会での協議を含む）

検討テーマをさらに5つに分けて検討を進めた。

区長会役員と地域の現状や課題について意見交換をして、検討の参考にすることができた。

検討内容

1 高齢化を逆手にとったまちづくり

高齢化が進み、若い人が減ってきている現状に対し、マイナスと捉えず、逆手に取ってまちづくりに生かすことができれば、高齢者もまちづくりの主役となり、イキイキ暮らせる地域づくりができるのではないかと。

【検討した具体策】

- (1) 「高齢者が持っている知識や技術を積極的に活用」すること
 - ・ 祭り、伝統芸能、昔話、歌、生活の知恵、料理などを若者や子どもに直接指導したり、本や映像で記録を残して伝達する。
- (2) 「新たな産業の創出」すること
 - ・ 薬草や山菜を取ってビジネス化
 - ・ 米や野菜のブランド化や新たな販路の拡大
- (3) 「若手が高齢者と遠慮なく一緒に活動できる環境」をつくること
 - ・ コミュニティセンターの設置 など

2 高齢者世帯等の雪対策

高齢者のみの世帯が増え、屋根の雪下ろしや玄関から道路までの道付けも困難な世帯もある現状に対し、地元のボランティアを活用した支援体制や、冬期限定の集合住宅があれば、安心して暮らすことができるのではないかと。

【検討した具体策】

- (1) 「活用しやすいボランティア制度」の仕組みをつくる。
 - ・ 社会福祉協議会のしんせつ除雪隊を広める。
 - ・ 企業ボランティアへの補助制度創設する。
- (2) 「冬季間だけの集合住宅」の設置をすること
 - ・ 閉校となった学校の活用 など

3 人口減少対策

少子化や進学・就職での若者の転出による人口減少が進んでいる現状に対し、若者が働く場所を確保することや結婚、子育て、住宅などのより良い環境づくりを進める。また、UターンやIターン者を受け入れることで、担い手不足の不安がない地域をつくることのできるのではないか。

【検討した具体策】

- (1) 「若者の人口流出を減らす」こと
 - ・ 雇用の確保（6次産業の立上げ）
 - ・ 冬場でも通勤・通学がしやすくする。
 - ・ 結婚相談所開設、婚活事業の実施
 - ・ 安価な住宅提供や購入・リフォーム資金等の補助
- (2) 「UターンやIターン者など移住者の受け入れ」をすること
 - ・ 移住者の相談窓口の設置や受け入れ支援体制の創設 など

4 交流人口の拡大

地域の人達が様々なことに連携して、魅力ある地域づくりを目指すことができれば、地域の人達が元気になる。また、結果として栃尾を訪れる人が増えていけば、地域経済が潤い安心して暮らせる地域をつくることのできるのではないか。

【検討した具体策】

- ・ 農業や祭り、自然（山、雪）等を活用した交流イベントの開催
- ・ 空き施設を活用し、スポーツや芸術などの合宿を誘致 など

5 その他

上記1から4以外で安心して暮らすための課題としては、「サルによる農作物被害」や「耕作放棄地の拡大」などが出されたが、解決のための具体策の検討に至らなかった。